

スズキ、船外機の世界累計生産 400 万台を達成



スズキ初の船外機「D55」



「DF350AMD」



クリーンオーシャンプロジェクト ロゴ

スズキ株式会社（以下、スズキ）は10月27日、船外機の世界累計生産400万台を達成しました。

スズキは1965年に高塚本社工場で船外機の生産を開始しました。1979年に愛知県の豊川に生産拠点を移したのち、2018年に湖西工場へ移転し生産しています。海外では、1999年にタイ子会社のタイスズキモーター社（以下、タイスズキ）にて生産を開始しました。

400万台目の船外機は、湖西工場です。10月より生産が開始された「DF350AMD[※]」でした。

現在、湖西工場です。中・大型船外機、タイスズキで小型船外機を生産しています。信頼性の高い船外機を、日本を含めた174の国と地域で販売しています。

鈴木社長は、「1965年の生産開始以来、独自性を持った船外機を目指し、常に新しい技術にチャレンジし続けたことが、累計生産400万台につながりました。スズキ船外機をご愛顧いただくすべての方へ、感謝申し上げます。今後もマリン事業活動を通じて、人と社会に必要とされるマリン製品、サービスを提供してまいります。」と述べています。

■ スズキのマリン事業

- ・ 1965年 2月 高塚本社工場にてスズキ初の船外機「D55」の生産を開始
- ・ 1979年 5月 豊川で船外機を生産を開始
- ・ 1999年 10月 タイスズキで生産を開始
- ・ 2008年 7月 静岡県湖西市に船外機技術センターが完成
- ・ 2017年 6月 フラッグシップ船外機「DF350A」を発表
- ・ 2018年 5月 湖西工場船外機生産ライン稼働を開始
- ・ 2020年 3月 スズキマリンテクニカルセンターUSAを新設
- ・ 2022年 7月 マイクロプラスチック回収装置を搭載した船外機を生産開始

■ スズキの船外機世界生産累計 400 万台の軌跡

- ・ 1965 年 生産開始
- ・ 1989 年 生産累計 100 万台達成
- ・ 2004 年 生産累計 200 万台達成
- ・ 2014 年 生産累計 300 万台達成
- ・ 2022 年 生産累計 400 万台達成

■ 環境に対する取り組み（クリーンオーシャンプロジェクト）

水があることで私たちの生活が成り立ち、また我々のマリン事業も成り立っていることに感謝し、スズキは船外機が使用される海、河川、湖を中心に、社員及びその家族にてボランティアによる清掃活動を 2010 年より毎年実施してきました。そして、2020 年には、1.世界清掃活動、2.プラスチック梱包材の削減活動、3.海洋マイクロプラスチックの回収活動、の 3 つのテーマを骨子とした「クリーンオーシャンプロジェクト」を立ち上げ、水辺の環境を守る活動を続けてまいりました。

スズキは、「クリーンオーシャンプロジェクト」の取り組みをさらに加速させ、マリンの事業活動を通じて、水辺の環境を改善し、地域社会に貢献してまいります。

※DF350AMD の概要

スズキのフラッグシップ「DF350A」の派生機種。船外機に操舵装置を内蔵することで、ボートとの取り付け部分がシンプルになり、搭載可能なボートの範囲が広がりました。10 月より生産を開始、北米を中心に順次販売を開始します。